

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400046	事業の開始年月日	平成18年8月1日
		指定年月日	平成30年8月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜瀬谷		
所在地	(〒246 -0004) 神奈川県横浜市瀬谷区中屋敷2-6-15		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和7年1月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自立の方から重度の方まで、様々な介護度の方がいらっしゃいます。有する能力を最大限に活かしながら、一人一人に合わせたケアプランを作成し支援しております。 ・日々のレクリエーションでは、花紙や折り紙などを使って、季節を感じる創作物を作成したり、散歩がお好きな方は職員と一緒に緑豊かな風景を楽しまれています。 ・四季に合わせたイベントを毎月3回以上行っております。ご利用者様と一緒に作るおやつや、お重でのお弁当提供、食にも力を入れています。 ・ご利用者様一人一人に寄り添い、優しさと笑顔を忘れずに支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年10月28日	評価機関 評価決定日	令和6年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇皆で季節感を楽しむ生活 ・利用者が作った四季折々の作品を事業所内に飾って季節感を感じ、春はお花見に出かけ、夏は地域の子ども神輿が立ち寄り交流するなど、利用者が生活の中で、季節や年中行事を楽しみ、生活が豊かになるようにしている。 ・季節のイベントや行事に因んだおやつ作りや食事を職員と一緒に楽しみ、誕生日には元シェフの管理者が作る季節をテーマにしたパフェを楽しんでいる。 ◇職員の資質向上にむけての取組 ・法人は階層、経験年数に応じた研修や勉強会を開催し、現場では管理者やリーダー格職員がOJTでケア技術等を指導し、職員の資質向上に取り組んでいる。 ・管理者は職員の業務目標や達成度、課題等を半年ごとに職員と面談して振り返り、やりがいを持って働けるようにしている。 【事業所が工夫している点】 ◇家族への情報提供 ・家族が行事に参加しやすいよう年間事業計画を配付し、また、利用者の日常の様子やイベントをブログやおたより（ひとこと通信）で情報提供して喜ばれている。 ◇働く環境への配慮 ・移乗支援ロボットの導入や業務管理システム、睡眠時のモニターシステム、服薬管理システム等のICT化により、介護者の負担軽減と業務の効率化を図っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜瀬谷
ユニット名	1 U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーター前及び2階スタッフルームに掲示し、業務の中で実現できるようにしています。	・事業所の理念を運営法人の理念とともに、スタッフルームに掲示している。理念に基づく年間事業計画を策定している。 ・日常の支援の仕方、対応に疑問を持ったり悩んだときには理念に立ち返り、再確認する機会とする。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の子どもみこしの休憩所の提供や、地域の和菓子屋・弁当屋で季節のお菓子や弁当を購入し交流。地域の認知症サポーター養成講座のスキルアップ研修の講師として参加もしています。	・自治会に加入しており、町内会の子ども神輿の休憩所として駐車場を提供している。子どもと交流するほか青年部の太鼓演奏がある。 ・管理者がケアプラザ主催の認知症サポータースキルアップ研修の講師を務めている。	事業所ではコロナ禍前に行っていた傾聴ボランティアやカラオケ教室、カフェを再開したいと考えています。再開し、地域の人々との交流がさらに増えることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方への支援・取り組み等の情報を発信しています。また、地域ケアプラザからの依頼で瀬谷第一地区WATボランティアに認知症サポーター育成講座の講師を行い、認知症を理解してもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所の取り組みや状況報告を説明しています。現在は対面での開催ですが、参加できない家族などは書面にて意見等を聞いています。	・2か月ごとの運営推進会議に町内会長、民生委員、瀬谷区高齢者支援担当、地域包括支援センター職員、利用者家族が参加し、情報交換したり、提案等を運営に活かしている。 ・参加できない家族からは、書面で意見を聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	瀬谷区地域密着型サービス会が開催されるようになりましたが、参加できていない状況です。高齢者支援課・生活支援課の担当者様と連絡を取り合っています。	・区の高齢障害支援課、生活支援課と緊密に連携を取っている。担当課へは直接訪問し、諸手続きや運営について助言等を得ている。 ・管理者が、来年度瀬谷区地域密着型サービス事業所連絡会の会長に就任する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、身体拘束等の適正化の為の研修を6月10日に開催。 玄関のカギは施錠していますが、要望があった場合は開錠しています。	・全職員参加の身体拘束廃止委員会を年4回開催している。 ・身体拘束等の適正化のための指針があり、研修を年2回実施し、学びを深め支援に繋げている。 ・フロア出入口はスタッフルームを通る構造になっている。玄関は安全のために、施錠している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、高齢者虐待に関わる研修を7月1日に開催。	・虐待防止、権利擁護の指針に基づく研修を年2回、また虐待防止委員会を年3回行うなど、虐待の防止に向けた取り組みを行っている。 ・法人の研修のほか、事業所独自のチェックリストを用いて、毎月チェックを実施し、意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があった場合は対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき、口頭で十分な説明を行っています。改定があった場合には、ご理解・ご納得を得ています。常に最新の契約書・重要事項説明書を掲示しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にしています。運営推進会議で伺い、面会時には職員から声を掛け、状況説明を行い意見等を伺っています。ご利用者様には日々傾聴し、記録や申し送り等により、職員間で情報共有を行っています。	・利用者の要望や意向は日常の会話や表情、行動から把握している。 ・家族の意見や要望は運営推進会議出席時や面会時、電話連絡時に聞いて対応している。運営推進会議に欠席の場合は、書面により要望や意見を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や職員会議等で意見を言 いやすい環境作りを心掛けていま す。また、年2回の個人面談を行 い、意見・提案・要望を聞き検討し 運営に反映しています。	・管理者は、会議、研修、打ち合わ せ、個人面談、スタッフノート、引 継ぎ、日ごろの会話で、業務の効率 化についての意見・要望を聞き運営 や業務内容に反映させている。 ・利用者が楽しめるイベントや行事 の企画は職員に任せている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員の状況把握、勤務調整を行い、 個々の得意分野を見つけ出し、役割 分担をしやりがいをもって働ける様 に、また、向上心をもってもらえる 様に環境作りに努めています。	・職員が向上心を持って働けるよ う、人事考課制度がある。 ・管理者は職員との面談に時間をか け、要望や心身の状況把握に努めて いる。 ・移乗支援ロボット、服薬管理シス テム、業務管理システム等を導入し 働く環境の工夫をしている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人内の研修があり、参加の調整を 行っています。また、管理者自らが 社内研修の講師となりケアリーダー への講師研修も行っています。	・運営法人が研修制度を整備し、資 格取得の補助金制度を設けている。 ・個別面談表をもとに半年ごとに管 理者と面談を行い、振り返りと話し 合いをしている。 ・各職員の得意なことを利用者の支 援に活かしてもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪 問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取組みをしている	瀬谷区で行われる連絡会・研修に参 加し、ネットワークづくりをしてお ります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努 めている	入居前の実態調査時に、ゆっくりと お話しできる時間を設け、要望・ 困っている事・不安な事・体調等を 伺い、安心して頂けるように配慮し ております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時にお話を伺い、不安・心配事・困っている事・要望等をお伺いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に寄り添い、困っている事や想いを傾聴し、理解共感する事で関係を築き、その方に合った支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話を利用し、常に状況や状態説明を行い、お話しする時間を設けています。毎月のひとこと通信にて、ご利用者様の様子・状態をお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があった場合は、事業所の電話を使用して頂いております。面会に来られた際は、お話しがゆっくりと出来るように、コミュニケーションがとれるよう、環境を整えています。	・家族や、知人との面会の際は、利用者の居室に案内している。 ・定期的に絵手紙が届き、見返せるようにアルバムにした事例がある。 ・1人で映画館に行ったり、家族同行で墓参、買い物、外食に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮しております。談話やレクリエーションで関りが持てるように、お互いの生活を支え合うように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた書類や情報を提供し、今までと同様な生活が継続できるように支援しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、思いや意向の把握を行っております。伝えるのが困難な方に関しては、表情や仕草で想いを汲み取り、職員と話し合っています。	・利用者の思いや意向は日常の様子、会話、何気ないつぶやき、表情、問いかけの反応等からくみ取っている。入浴時にゆっくり聞き取ることもある。 ・把握したことは記録に残すほか、全体会議でも職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に、ご利用者様・ご家族様より情報をお伺いし、実態調査票にて職員間の情報共有を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・申し送り・健康管理表の記録により、心身の状態を把握し、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からのご意向を確認し、アセスメント・カンファレンスを行い、どのような支援を必要としているか見極めてケアプランを作成しています。また、心身の状況変化があった場合には、介護計画書を都度変更しています。	・医師・薬剤師・看護師の意見と本人、家族の意向を把握し、職員意見及び、日常の生活状況をもとに、介護計画を作成している。 ・モニタリングは半年ごとに行い、毎月の会議では各利用者の状況を確認し介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用し、ケアプランに沿った支援が出来ているか、ナンバリングを行って実績・結果・不足しているニーズがないかを見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のリハビリマッサージ・シニアセラピー等、ご要望があった時には個別で対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売（セブンイレブン）・ヤクルトの訪問販売・地域の美容室・地域のお弁当屋さん・地域の和菓子屋さんを利用しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご利用者様・ご家族様への説明を行い、納得・同意の上、事業所の訪問診療を利用して頂いています。必要に応じて医療機関のご案内もさせて頂いています。	・訪問診療を内科医は月2回、歯科医と歯科衛生士は夫々月2回受けている。 ・薬の管理は薬局に依頼し、薬局は利用者ごとに薬の小分けをして配達してくれる。服薬支援システムを使い誤飲防止の確認をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制看護職員の訪問により、医療連携看護師連絡記録を用いて、健康管理・相談等を行っています。また必要に応じて訪問看護への利用を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院・ご家族様と連携を取り合い、看護サマリー等で情報共有を行っています。また、職員による面会にて入院中のご様子の把握、退院に向けてご家族様・医師とムンテラを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明しています。都度必要に応じた対応をしています。	・ターミナルケアに入るときには、医師、家族、事業所管理者で話し合い、今後の方針を決めている。 ・看取り介護研修を年1回実施すると共に、看取り期間中にも行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入しています。また、消防署による心肺停止・AEDの使い方等の研修を受けています。マニュアルもあり、すべての職員に周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に避難所を周知し、近隣職員への協力を仰いでいます。防災時の備蓄の用意を行っています。消防署の指導の下、昼間・夜間想定避難訓練を行っています。	・避難訓練は自治会長、ケアプラザ職員の参加を得て、夜間想定1回を含め、年2回開催している。消防署の立ち合いがあり、通報訓練を行なっている。 ・備蓄品は3か月分の食事セット、水、缶詰等をBCP（事業継続計画）に沿って保管している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に合わせた声掛けを行い、排泄や入浴等ドアやカーテンを閉め、プライバシーに配慮しています。	・排泄介助では、トイレの空け放しは厳禁としている。用足し後の手伝いがある場合には、トイレの入口で待つようにしている。 ・利用者の尊厳に関する研修を入職時に受け、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択・決定が出来る場面を作り行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちなどに配慮し、その方に合ったペースで過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂いたり、紙を梳かして頂いています。今まで使用していた化粧品等がある場合は、継続して使用して頂いています。また、外出時には化粧品や衣類などを購入しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態により、出来る範囲で手伝って頂いています。行事食の際は事前に希望を聞いて、希望を取り入れたメニューを提供しています。ご自分でいつまでも食事が食べられるように、姿勢や食事形態を工夫し支援しています。	・食事イベントを月3回行っている。利用者の希望で、焼きそば、たこ焼き、季節を楽しめるおやつにフルーツを使ったパフェなどを出している。 ・利用者の起床時間が早く朝食の時間も早いため、昼食を11時15分からとし、食間に配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事形態・好み等の把握を行い、その方の状態に合わせて食器やコップ等を変えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っています。ご自身で困難な方は、歯科衛生士指導のもと介助を行い清潔を保っています。歯科衛生士が週1回口腔内の状態観察・口腔ケアを行ない、必要に応じて歯科医師が診察・治療を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄（排尿排便）パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら定期的にお声掛けを行い、排泄誘導・自立支援を行っています。	・排泄パターンを把握し、一定の時間や食前・食後にトイレ誘導を行っている。声掛けは利用者の羞恥心に配慮して、大声を避けている。 ・利用者の様子を見て、先ずトイレ誘導をすることでパットの使用が減った例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便の確認を行っています。体操を毎日行い、水分を多めにとって頂く等の自然排便を促す取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	いつでも入浴が出来るようにしています。入浴前に必ずバイタル測定を行い、その方の身体状態に合わせた入浴の支援を行っています。入浴剤を使用し、楽しんで入浴が出来るように工夫しています。	・入浴は週2回、原則午前中としているが、希望者には午後も対応している。 ・入浴剤で温泉気分を味わってもらったり、職員と一緒に入り、会話をしたり歌を歌ったりして入浴を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、無理なく自由に休んで頂けるように、お声掛け・介助を行っています。居室に関しては、一人一人に合わせた照明や温度の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の都度、薬剤師が薬を持参し、用法・用量についての説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた役割を持って頂けるように、食器拭き・洗濯畳み・ゴミ箱作り等で支援しています。好きな事を把握し、レクリエーションとして楽しんで頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合った外出支援を行っています。散歩でジュースを買いに行く事や通院ついでにショッピングを楽しまれています。重度の方に関しては、駐車場やベランダを使用し、外気浴や散歩を行っています。	・天気の良い日には、事業所の周囲を散歩したり、花壇の花の水やりなどで外気浴をしている。 ・家族と一緒に、誕生月に外食をしたり、墓参に出かける利用者がいる。	・利用者の高齢化に伴って、外出機会が減っています。利用者の体力維持と気分転換に外出レク（施設の外に出て行うレクリエーション）の検討が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトや移動販売（セブンイレブン）が来た時は、職員付添のもと、お好みの物を購入して頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りが出来るようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、季節に合わせたレイアウトをご利用者様と一緒に作成し飾っています。	・清掃マニュアルがあり、リビングは早番職員が掃除機で、夜勤がモップ掛けで清掃を行い、清潔が保たれている。 ・花紙を使って、職員と利用者が共同で作った大きな太陽と虹の作品や、季節にちなんだ多数の作品が施設内に飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶の時間以外は、お好きな場所で過ごして頂いています。ソファを設置し、ご自由に過ごして頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある物や使い慣れたものを持ってきて頂き、入居前と生活環境が少しでも変わらないように、安心して居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。	・居室にはベッド、防災カーテン、クローゼット、箆箆が備えてあり、利用者は馴染みの家具を持ち込み、家族写真等を飾って自分の部屋造りをしている。 ・居室の清掃は職員が行い、できる利用者は手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字による「トイレ」の表示や、居室入り口の名札の掲示、動線には物を置かないように工夫をしています。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜瀬谷
ユニット名	2 U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーター前及び2階スタッフルームに掲示し、業務の中で実現できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の子どもみこしの休憩所の提供や、地域の和菓子屋・弁当屋で季節のお菓子や弁当を購入し交流。地域の認知症サポーター養成講座のスキルアップ研修の講師として参加もしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方への支援・取り組み等の情報を発信しています。また、地域ケアプラザからの依頼で瀬谷第一地区WATボランティアに認知症サポーター育成講座の講師を行い、認知症を理解してもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所の取り組みや状況報告を説明しています。現在は対面での開催ですが、参加できない家族などは書面にて意見等を聞いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	瀬谷区地域密着型サービス会が開催されるようになりましたが、参加できていない状況です。高齢者支援課・生活支援課の担当者様と連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、身体拘束等の適正化の為の研修を6月10日に開催。 玄関のカギは施錠していますが、要望があった場合は開錠しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、高齢者虐待に関わる研修を7月1日に開催。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があった場合は対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき、口頭で十分な説明を行っています。改定があった場合には、ご理解・ご納得を得ています。常に最新の契約書・重要事項説明書を掲示しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にしています。運営推進会議で伺い、面会時には職員から声を掛け、状況説明を行い意見等を伺っています。ご利用者様には日々傾聴し、記録や申し送り等により、職員間で情報共有を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や職員会議等で意見を言いやすい環境作りを心掛けています。また、年2回の個人面談を行い、意見・提案・要望を聞き検討し運営に反映しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握、勤務調整を行い、個々の得意分野を見つけ出し、役割分担をしやりがいをもって働ける様に、また、向上心をもってもらえる様に環境作りに努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修があり、参加の調整を行っています。また、管理者自らが社内研修の講師となりケアリーダーへの講師研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区で行われる連絡会・研修に参加し、ネットワークづくりをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に、ゆっくりとお話できる時間を設け、要望・困っている事・不安な事・体調等を伺い、安心して頂けるように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時にお話を伺い、不安・心配事・困っている事・要望等をお伺いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に寄り添い、困っている事や想いを傾聴し、理解共感する事で関係を築き、その方に合った支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話を利用し、常に状況や状態説明を行い、お話しする時間を設けています。毎月のひとこと通信にて、ご利用者様の様子・状態をお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があった場合は、事業所の電話を使用して頂いております。面会に来られた際は、お話しがゆっくりと出来るように、コミュニケーションがとれるよう、環境を整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮しております。談話やレクリエーションで関りが持てるように、お互いの生活を支え合うように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた書類や情報を提供し、今までと同様な生活が継続できるように支援しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、思いや意向の把握を行っております。伝えるのが困難な方に関しては、表情や仕草で想いを汲み取り、職員と話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に、ご利用者様・ご家族様より情報をお伺いし、実態調査票にて職員間の情報共有を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・申し送り・健康管理表の記録により、心身の状態を把握し、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からのご意向を確認し、アセスメント・カンファレンスを行い、どのような支援を必要としているか見極めてケアプランを作成しています。また、心身の状況変化があった場合には、介護計画書を都度変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用し、ケアプランに沿った支援が出来ているか、ナンバリングを行って実績・結果・不足しているニーズがないかを見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のリハビリマッサージ・シニアセラピー等、ご要望があった時には個別で対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売（セブンイレブン）・ヤクルトの訪問販売・地域の美容室・地域のお弁当屋さん・地域の和菓子屋さんを利用しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご利用者様・ご家族様への説明を行い、納得・同意の上、事業所の訪問診療を利用して頂いています。必要に応じて医療機関のご案内もさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制看護職員の訪問により、医療連携看護師連絡記録を用いて、健康管理・相談等を行っています。また必要に応じて訪問看護への利用を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院・ご家族様と連携を取り合い、看護サマリー等で情報共有を行っています。また、職員による面会にて入院中のご様子の把握、退院に向けてご家族様・医師とムンテラを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明しています。都度必要に応じた対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入しています。また、消防署による心肺停止・AEDの使い方等の研修を受けています。マニュアルもあり、すべての職員に周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に避難所を周知し、近隣職員への協力を仰いでいます。防災時の備蓄の用意を行っています。消防署の指導の下、昼間・夜間想定避難訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に合わせた声掛けを行い、排泄や入浴等ドアやカーテンを閉め、プライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択・決定が出来る場面を作り行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちなどに配慮し、その方に合ったペースで過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂いたり、紙を梳かして頂いています。今まで使用していた化粧品等がある場合は、継続して使用して頂いています。また、外出時には化粧品や衣類などを購入しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態により、出来る範囲で手伝って頂いています。行事食の際は事前に希望を聞いて、希望を取り入れたメニューを提供しています。ご自分でいつまでも食事が食べられるように、姿勢や食事形態を工夫し支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事形態・好み等の把握を行い、その方の状態に合わせて食器やコップ等を変えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っています。ご自身で困難な方は、歯科衛生士指導のもと介助を行い清潔を保っています。歯科衛生士が週1回口腔内の状態観察・口腔ケアを行ない、必要に応じて歯科医師が診察・治療を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄（排尿排便）パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら定期的にお声掛けを行い、排泄誘導・自立支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便の確認を行っています。体操を毎日行い、水分を多めにとって頂く等の自然排便を促す取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	いつでも入浴が出来るようにしています。入浴前に必ずバイタル測定を行い、その方の身体状態に合わせた入浴の支援を行っています。入浴剤を使用し、楽しんで入浴が出来るように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、無理なく自由に休んで頂けるように、お声掛け・介助を行っています。居室に関しては、一人一人に合わせた照明や温度の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の都度、薬剤師が薬を持参し、用法・用量についての説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた役割を持って頂けるように、食器拭き・洗濯畳み・ゴミ箱作り等で支援しています。好きな事を把握し、レクリエーションとして楽しんで頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合った外出支援を行っています。散歩でジュースを買いに行く事や通院ついでにショッピングを楽しまれています。重度の方に関しては、駐車場やベランダを使用し、外気浴や散歩を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトや移動販売（セブンイレブン）が来た時は、職員付添のもと、お好みの物を購入して頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りが出来るようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、季節に合わせたレイアウトをご利用様と一緒に作成し飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶の時間以外は、お好きな場所で過ごして頂いています。ソファを設置し、ご自由に過ごして頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある物や使い慣れたものを持ってきて頂き、入居前と生活環境が少しでも変わらないように、安心して居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字による「トイレ」の表示や、居室入り口の名札の掲示、動線には物を置かないように工夫をしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜瀬谷

作成日 令和6年12月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍前には行っていたボランティアさんによる傾聴・音楽などが止まったままであり、地域の方との交流が減っている。	地域の方との交流を増やしていくために、ボランティアさんによるイベント（音楽等）を行っていく。	すでにボランティアさんへお声をかけており、ボランティアさんによる楽器演奏が始まります。さらにお声をかけていきます。	3 か月～
2	49	外出イベントができていない状況。	外出イベントを増やしていく。	職員の余裕がない中であるので、ボランティアさんやご家族様へお手伝いをお願いし、外出を増やしていく。大人数では難しいので、順番に個別対応で外出をしていく。	3 か月～
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。